

研究課題別事後評価結果（情報科学分野）

1. 研究課題名： 人流ビッグデータによる地球規模の課題解決のための情報学と社会科学の融合基盤構築

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）
研究代表者

水野 貴之（国立情報学研究所情報社会相関研究系 准教授）

主たる共同研究者

杉山 磨人（国立情報学研究所情報プリンシプル研究系 准教授）

宮尾 祐介（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授）

3. 事後評価結果

○評点:

A 優れている

○総合評価コメント:

研究目標はほぼ計画通りに達成できた。具体的には、(a) 人流に関する汎用的なデータマイニング技術では、グラフカーネルを用いた人流ビッグデータ処理系を確立し、グラフ構造を用いない単純な処理法と比較して、より精度の高いイベント検出が達成できることを確認した。(b) 人流の特徴量を人間が理解できる形で意味づけするための汎用的な言語化技術の開発では、特定のイベントに紐づけられたツイート集合とそれを要約したテキストのデータセットを開発し、これを学習・評価データとして用いて、既存の自動要約手法による要約文生成の評価を行った。(c) 人流に関する情報学と社会科学との融合基盤構築では、新技術の具体的な応用例を情報学と社会科学のコミュニティに提示し、大型共同研究プロジェクト立ち上げに向けた連携を開始すると共に、具体的な分析例として、フランス・パリ近郊におけるアラビア語ユーザーとフランス語ユーザーの空間分布における乖離傾向の明示を試みている。

一方で、3グループの連携に関しては、その可能性を高く評価して採択したが、現時点では、連携の必然性が、具体的な成果の形となって充分には現れていない。開発された要素技術と、これを地球規模の社会科学的課題の解決に応用しようとする道筋は明らかになりつつあるので、更に密に3者が連携すると共に、そのネットワークを拡げて、新しい学術的方法論の確立へと発展させていただきたい。その意味で、既に連携のネットワークを拡大されつつある努力は高く評価する。